



# もにす認定おめでとうございます！



認定通知書交付の様子

左から (株) 長崎グランドサービス 執行役員専務取締役  
富田 祐次様、長崎労働局長 小城 英樹

令和6年2月5日、長崎労働局は、障害者雇用促進法に基づく「もにす認定企業」として、株式会社 長崎グランドサービスに対する認定通知書交付式を執り行いました。

長崎労働局は、もにす認定企業を積極的に応援しています！

## 株式会社 長崎グランドサービス 執行役員専務取締役 富田様より

この度は、もにす認定を受けることになり、大変うれしく思います。

また、もにす認定を受けるに当たりご尽力いただきました皆様にお礼を申し上げますとともに、障害者雇用にご協力いただきましたすべての方に感謝申し上げます。

大村市では初の認定になりますが、社会的責任を果たすと共に、これを機に障害者雇用の取組が広がる事を期待します。今後も一人一人がその個性を持って輝きながら仕事ができるよう、もにすの精神である「**ともにすすむ**」を胸に全力でサポート出来るように努めてまいりたいと思います。どうぞこれからも宜しくお願い致します。本日は誠にありがとうございました

### Q. 最初に障害のある方を雇用された経緯は何でしょうか？

弊社は昭和38年に長崎市内で創業致しました。そこから昭和55年に業容拡大に伴い人員を募集し、知人の紹介で2名の障害者を雇用したのが最初でした。

これを機に、障害を持たれている方でも十分に仕事出来ることを認知しました。

### Q. 障害のある方を採用するに当たり、何に重きをおかれていますか？

一番は通勤が自力でできるかということです。これは安全に仕事ができるかの判断にも繋がっています。

Q. 障害者にとって優しい、働きやすい職場環境を作るという点で、工夫している点や意識されている点があれば、教えてください。(具体的には、)

①周りの従業員が配慮していることがありましたら、教えてください。

障害者との間に壁を作らない。

笑顔で挨拶する。

優しい指導を心掛けながら、安全面では厳しく指導するなど気を付けています。

②障害者雇用における仕事の切り出しや配属先はどのように決定されていますでしょうか。何か意識や工夫されていることがあれば教えてください。

まずは工場環境に慣れる事を優先し、徐々にいろんな作業を経験してもらいます。

そして一緒に作業するスタッフとのマッチングも考えながら、個々の特性に合わせて、仕事を選んでいきます。



Q. 障害者雇用の割合が、かなり高い点について、経緯等があれば教えてください。また、障害のある方が多いという点で、何か業務運営に当たって意識されていること、心がけていることがあれば、併せて教えてください。

弊社は、ホテル等にシーツ類をリースしてクリーニングする事業を展開しており、障害者の方を雇用したのをきっかけに、障害者が取り組みやすい仕事だと思えるようになりました。

昭和57年には、業容拡張で諫早の中核団地に移転し、工場も大きくなり、人員も必要ということで、徐々に障害者雇用も増えていきました。

一番気をつけることは安全です。そこをどうやって進めるかという、まずは挨拶。そこで顔色を見て、体調などみんなで気掛ける。目配り、気配り、心配りを大切にしています。

弊社で働いている障害者の方は、みんな意識が高くて前向きで、ほとんどの業務を任せています。その中で必ず健常者をサポートにつけているので、作業の中の障害者からの質問に、何度でも必ず答えるよう心掛けています。

Q. 障害者を雇用していることで、企業にとってのプラス面はどのようなことがありますか？

健常者の意識が変わったように思います。障害者の中には、特定の作業に対して健常者以上の能力を持った者がいるので、これが健常者の刺激となり、社員全体のレベルアップに繋がっていると思います。

Q. 障害者の方が職場に長期間定着されていますが、従業員同士の雰囲気づくりや風通しを良くする工夫など（勉強会や交流会などの機会の有無）があれば、教えてください。

毎月、相談室で普段の生活や悩みを聞き出していきながら、コミュニケーションを取るようにしています。また、面談やヒアリングだと構えてしまうことがあるので、毎日声かけをして距離を縮めるよう心掛けています。

Q. 今回の認定について

①どのように受け止めておられますか。

とても光栄です。今後、ますます障害者雇用に対して環境作り等に取り組んでいきたいと思っています。

②どのようにPRし、認定マークをどのように活用したいと考えていらっしゃいますか。

社員の名刺に印刷したり、会社のパンフレットの更新時に認定マークを掲載したい。

よろしければ、障害者雇用の取り組みを含め、御社のPRをお願いします。

弊社は、リネンサプライ業として、60有余年営んでおり、長崎の観光産業の縁の下の力持ちとして日々努力しております。

今後、観光産業は盛り上がり、ホテルもリネンも足りなくなると思うので、更に業容を拡大し障害者が働きやすい職場のしくみを作って、地場の雇用に貢献したい。

Q. せっかくの機会ですので、行政、特に労働局への要望などがありましたらお願いします。

弊社は高台に位置し、どうしても通勤の便が悪い。

一部の障害者は大村市の助成による乗り合いタクシーを利用しているが、エリアが狭い。エリアが広がれば、もっと多くの障着者を雇用出来ると思うので、大村市に運行エリア拡大をお願いしたい。

